

# 本宮市国土利用計画 及び 本宮市都市計画マスタープラン 市民アンケート調査結果の概要

市長公室 政策推進課  
建設部 まちづくり推進課

## 1. アンケート調査の概要

### (1) 目的

このアンケート調査は、土地の利用に関する最も基本的な計画である「本宮市国土利用計画」と、まちづくりの将来像を示し、その目標を実現するために、土地利用・道路・公園などの施設の整備方針などを示す計画である「本宮市都市計画マスタープラン」の策定にあたり、「地域の現状」や「これまでのまちづくりに対する満足度」、「将来のまちづくりに対する考え方」などに関する市民の皆様方の意見・意向を把握し、計画に反映させることを目的として実施しました。

### (2) 調査方法

- 調査地域：本宮市全域
- 調査対象：本宮市に居住する20歳以上の市民2,000人  
(住民基本台帳より地区や年齢に配慮した無作為抽出)
- 調査方法：調査票を郵送配布、郵送回収
- 調査期間：平成24年8月14日～8月24日まで

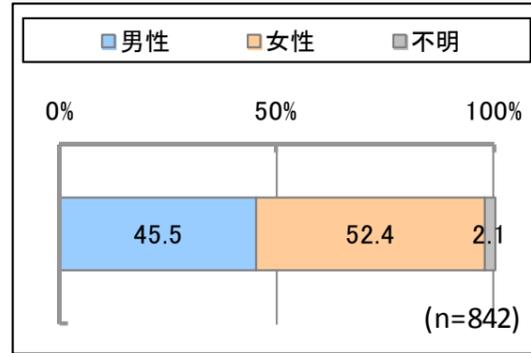
### (3) 回収状況

- 回答数 842名
- 回収率 42.1%

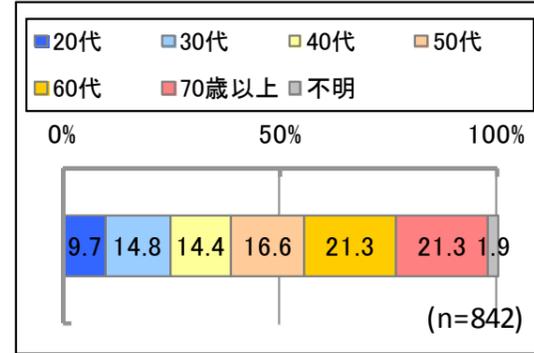
## 2. 集計結果の概要

### (1) 回答者の主な属性

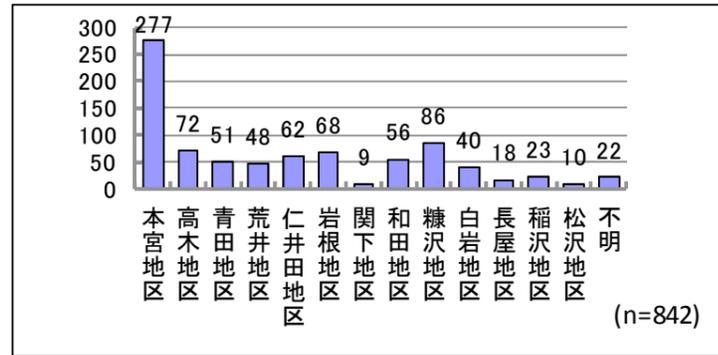
#### ■ 性別



#### ■ 年齢



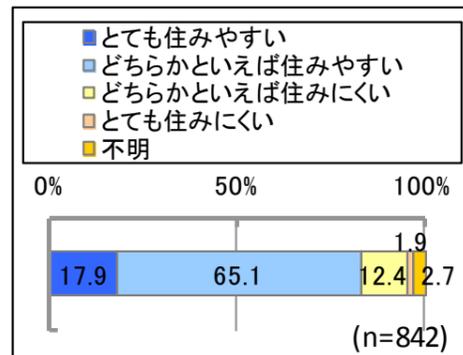
#### ■ 地区別回答者数



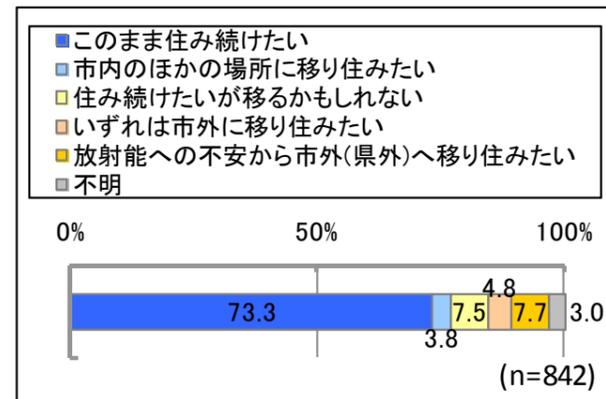
### (2) 本宮市の住みやすさと定住意向(問 1、問 12)

- 8割以上の方が「住みやすい」と感じており、「住みにくい」という回答は14.3%とわずかでした。
- 「このまま住みたい」が73.3%と圧倒的に多く、高い定住意向となっています。
- 「いずれは市外に移り住みたい」や「放射能への不安から市外(県外)へ移り住みたい」などという積極的な移住の意向を有する回答は合計で12.5%となっております。僅かながらも「移り住みたい」と考えている方がいることを踏まえ、定住対策を検討していく必要があります。

#### ■ 住みやすさ



#### ■ 定住意向

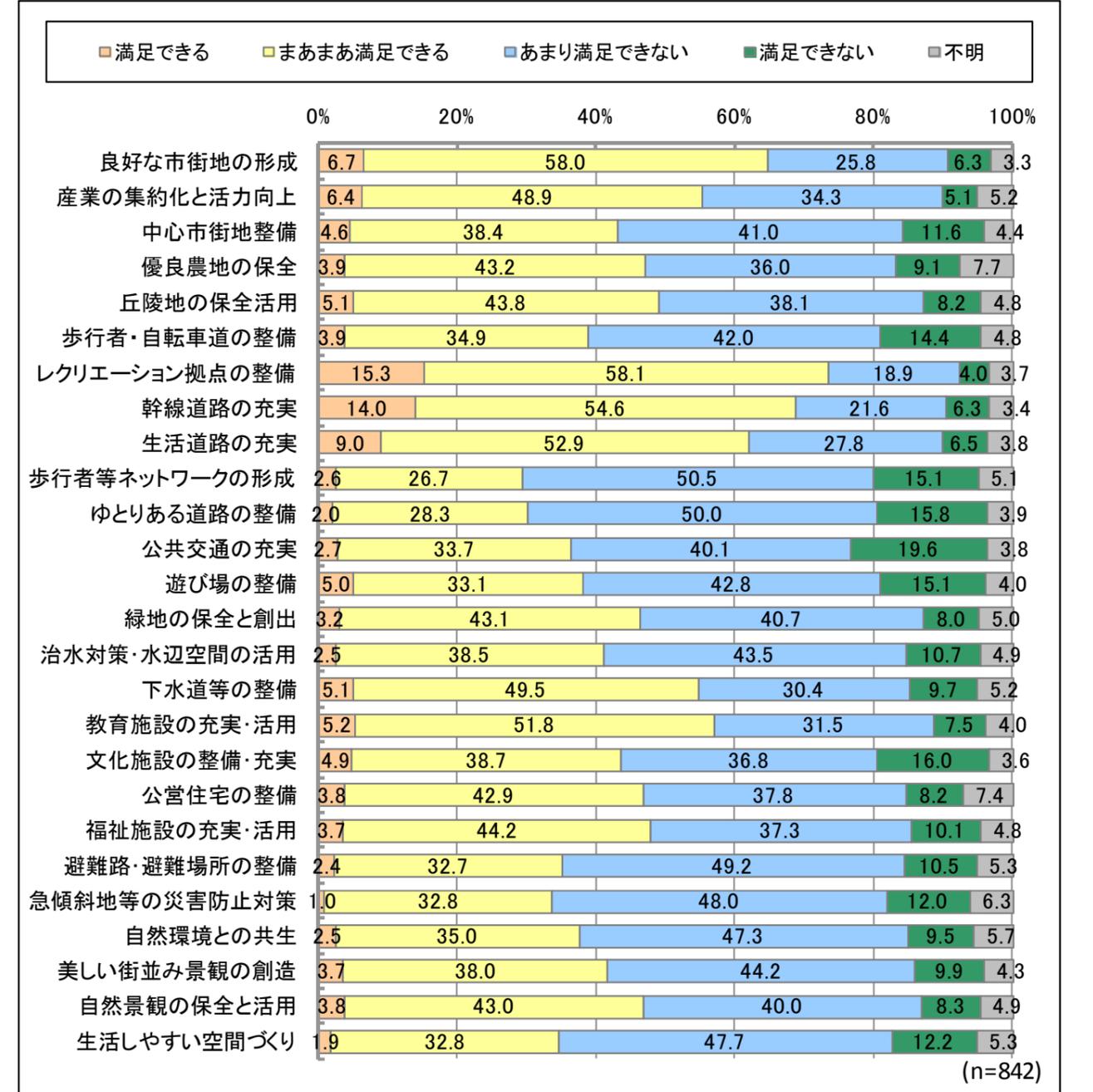


### (3) まちづくりの満足度と今後の取り組み(問 2、問 3)

#### ① まちづくりの満足度

- 満足度の高い分野は、「レクリエーション拠点の整備」「幹線道路の充実」「生活道路の充実」「良好な市街地の形成」「産業の集約化と活力向上」「教育施設の充実・活用」「下水道等の整備」で、生活基盤に関する満足度が高くなっています。
- 満足度が低いのは、「歩行者等ネットワークの形成」「ゆとりある道路の整備」「公共交通の充実」「遊び場の整備」「避難路・避難場所の整備」「急傾斜地等の災害防止対策」「生活しやすい空間づくり」などで、生活の安全性やゆとり、快適性といった面で満足度が低くなっています。

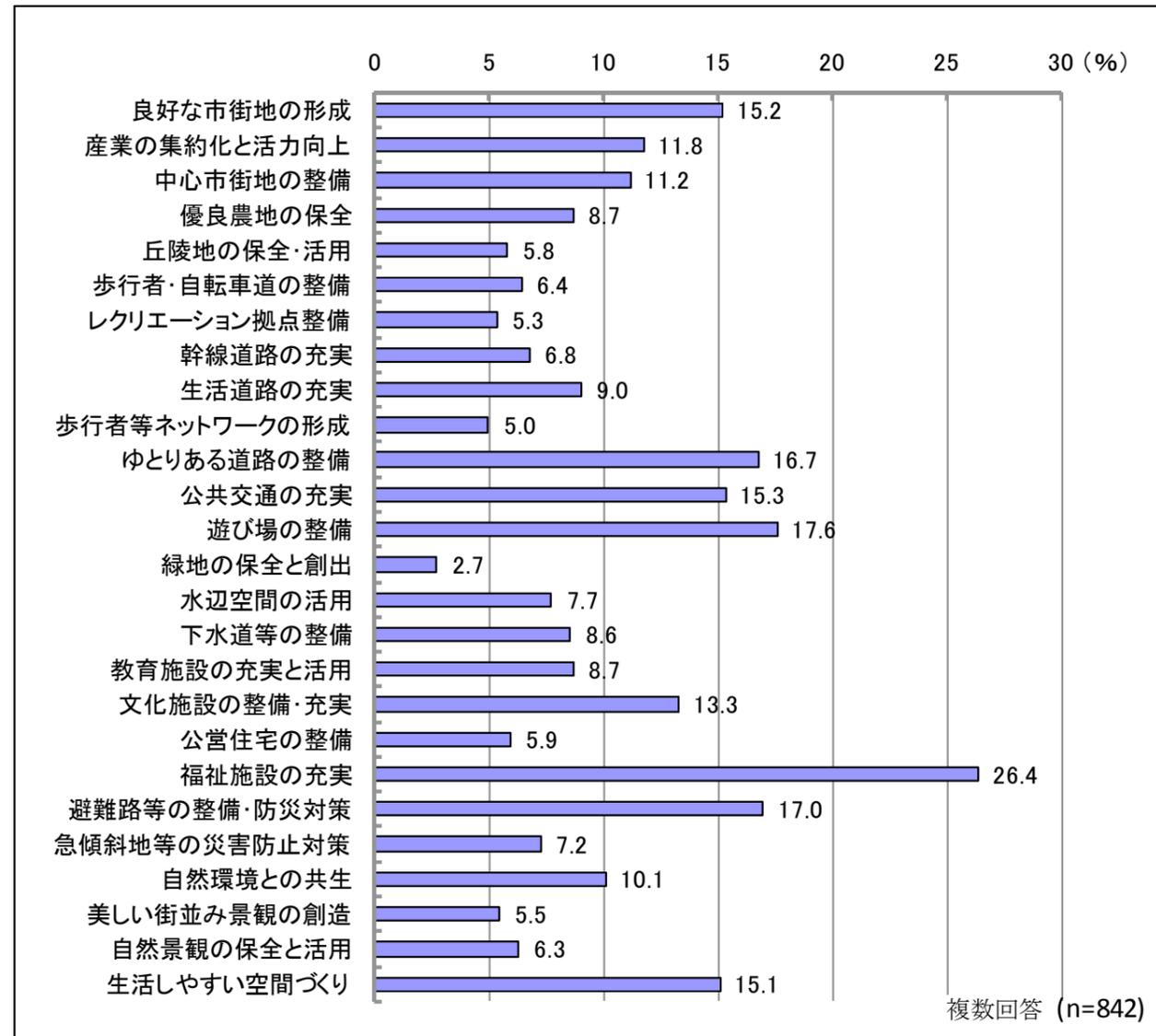
#### ■ まちづくりの満足度



② 今後の取り組み

- 今後の最も重要な取り組みは「福祉施設の充実」であると考えている方が 26.4%と突出しており、次いで、「遊び場の整備」(17.6%)、「避難路等の整備・防災対策」(17.0%)「ゆとりある道路の整備」(16.7%)となっております。
- 少子高齢社会への突入により、福祉施設のさらなる整備・充実の意向が極めて高くなっていると考えられます。

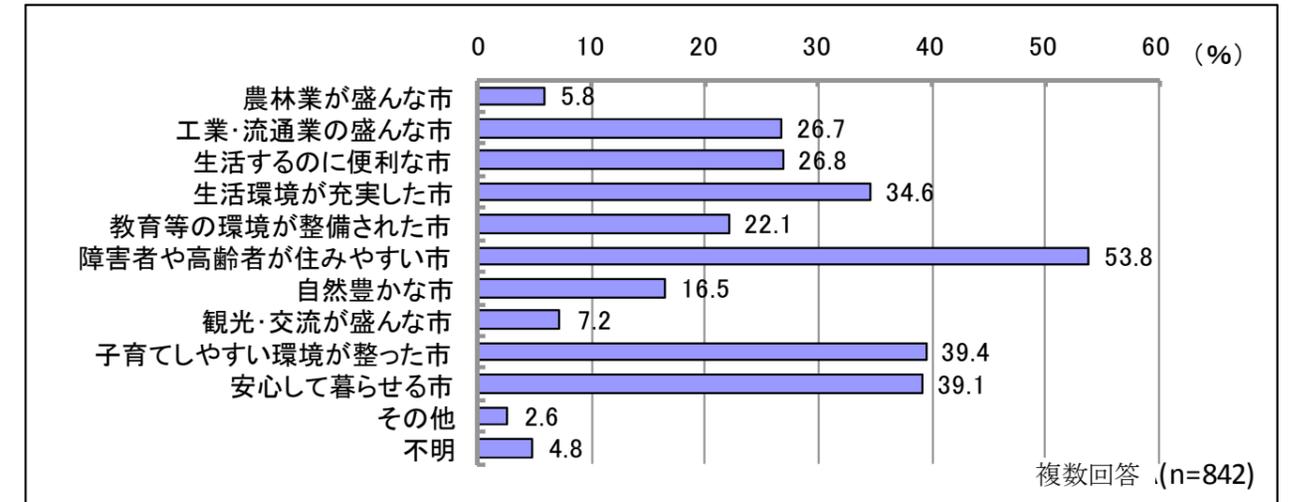
■ 今後重要と考える取り組み（複数回答）



(4) 市の将来像(問 4)

- 「障害者や高齢者が住みやすい市」が 53.8%と半数を超え、次いで、「子育てしやすい環境が整った市」(39.4%)、「安心して暮らせる市」(39.1%)、「生活環境が充実した市」(34.6%) となっております。
- 『安心して暮らせる生活環境が整った市』が将来像として求められていると考えられます。

■ 市の将来像（複数回答）

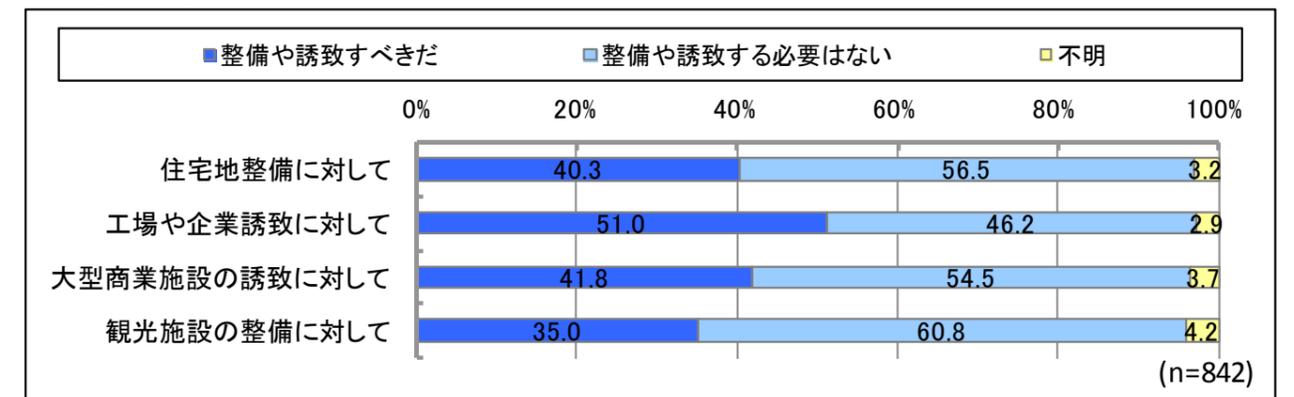


(5) 各種整備のあり方(問 5～問 11)

① 今後の開発

- 「工場や企業を誘致すべきだ」のみ、賛成がわずかに半数を超えますが、住宅地、大型商業施設、観光施設の整備や誘致に関しては消極的な意向が多くなっています。

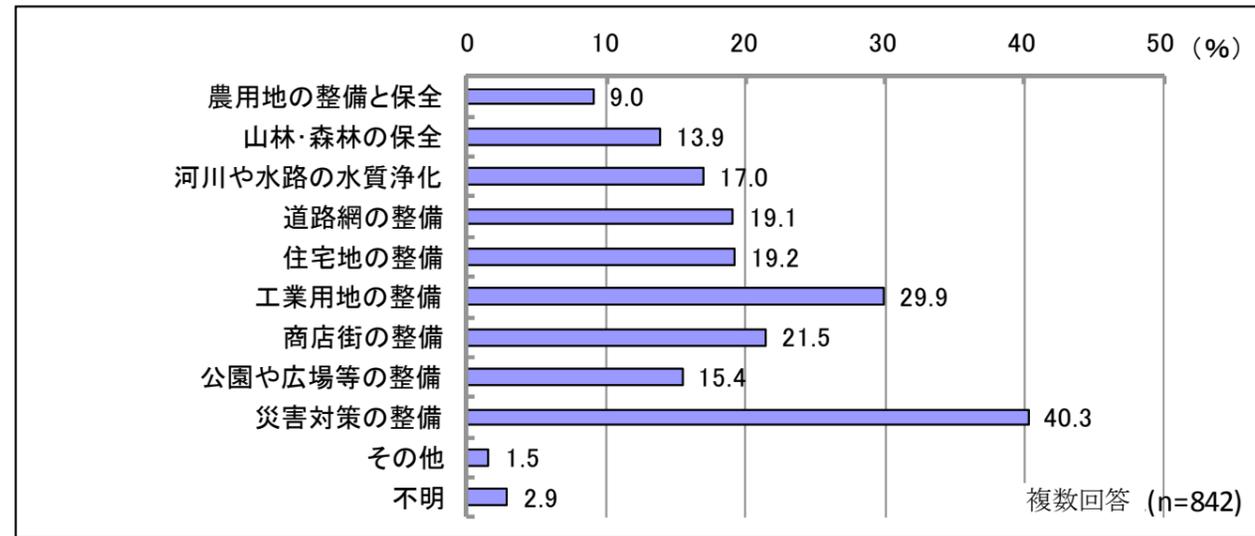
■ 今後の開発



## ② 重点を置くべき都市環境

- 重点を置くべき都市環境については、「災害対策の整備」が40.3%と最も多く、次いで「工業用地の整備」が29.9%、「商店街の整備」が21.5%となっています。
- 東日本大震災の経験から、安全・安心に対する考えが強くなっており、また、今後もインターチェンジや国道4号線に近接しているという好立地条件を生かした工業都市として発展していくことが望まれていると考えられます。

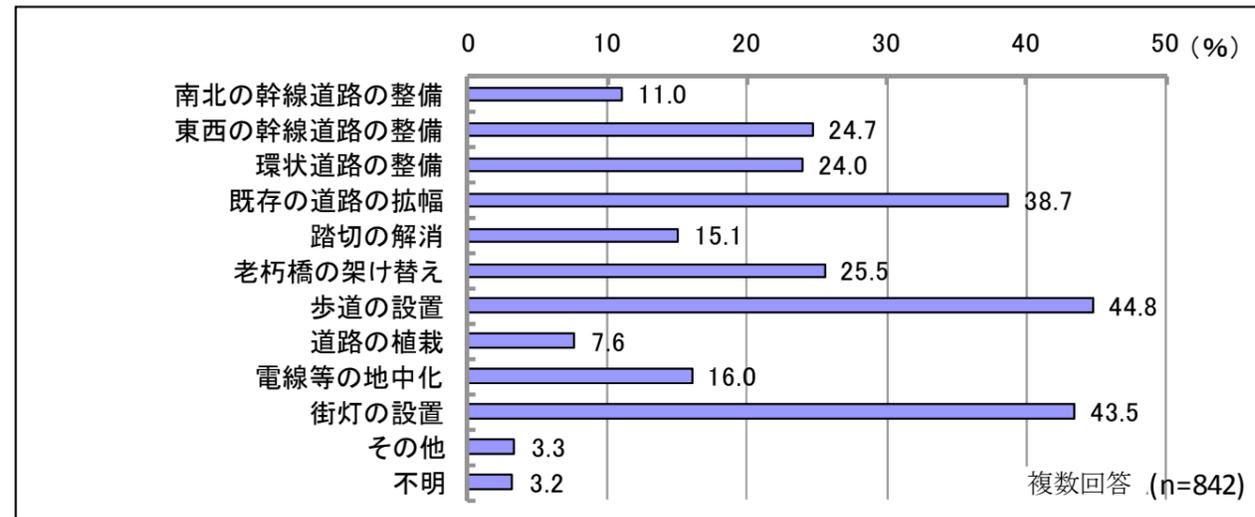
### ■ 重点を置くべき都市環境（複数回答）



## ③ 今後重要な道路整備

- 道路の整備に関しては、「東西道路」(24.7%)や「環状道路」(24.0%)、「老朽橋の架け替え」(25.5%)の選択率が相対的に高いですが、それ以上に「歩道の設置」(44.8%)、「街灯の設置」(43.5%)、「既存の道路の拡幅」(38.7%)など、安全・安心に通行できる道路の環境整備が望まれていると考えられます。

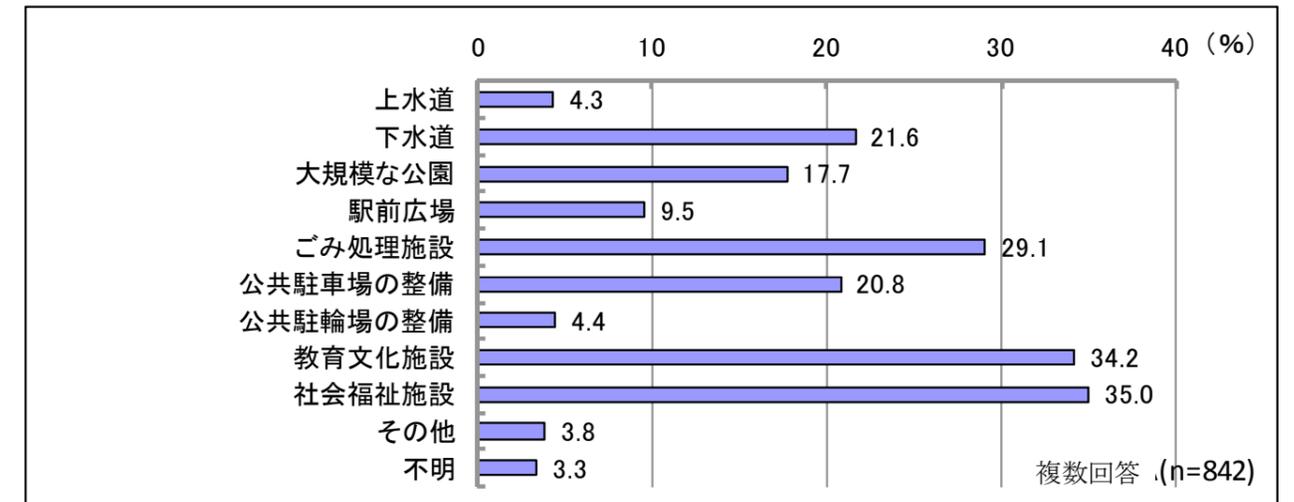
### ■ 今後重要な道路整備（複数回答）



## ④ 今後整備を進めるべき都市施設

- 今後整備を進めるべき都市施設として、「社会福祉施設」(35.0%)、「教育文化施設」(34.2%)、「ごみ処理施設」(29.1%)の整備が相対的に高くなっています。
- 問4での「市の将来像」で高く望まれていた、「障害者や高齢者が住みやすい市」と「子育てしやすい環境が整った市」という意向が、都市施設の整備にも顕著に表れていると考えられます。

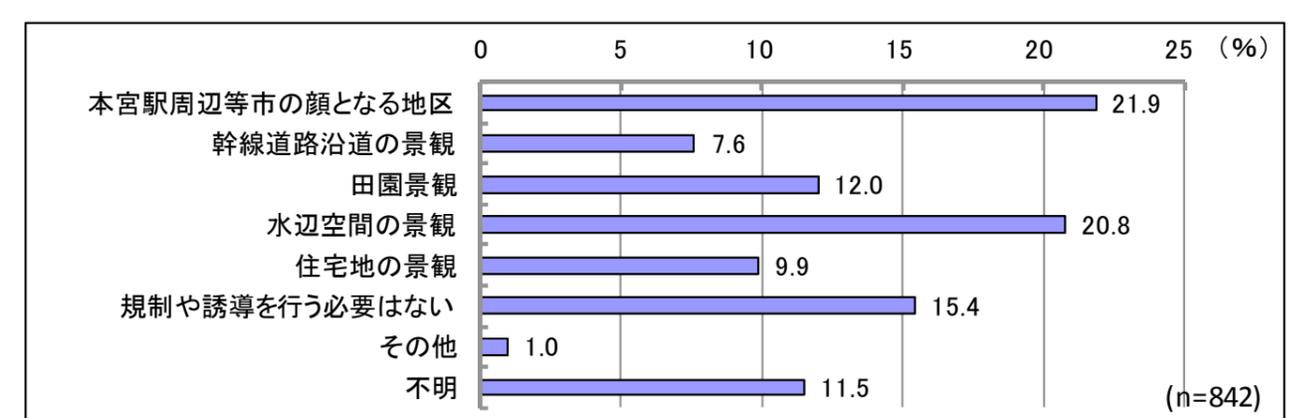
### ■ 今後整備を進めるべき都市施設（複数回答）



## ⑤ 最も取り組むべき景観整備

- 景観整備に関しては、「本宮駅周辺等市の顔となる地区」(21.9%)、「水辺空間の景観」(20.8%)の整備が高くなっています。
- また、自由回答では、自慢できる施設や風景、資源として、「みずいろ公園」が突出して多くの回答を集め、次いで、「安達太良山」「自然・緑・桜・田園・その他川など」「風景・眺望・夜景」「えぼか」と続きます。

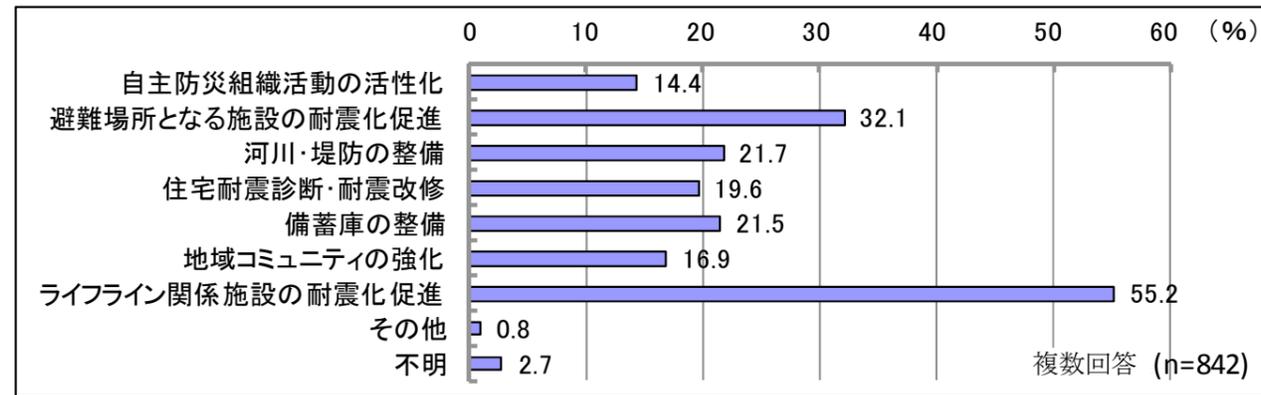
### ■ 最も取り組むべき景観整備



⑥ 大規模災害への必要な備え

- 大規模災害への備えとしては、「ライフライン関係施設の耐震化促進」が55.2%と突出し、「避難場所となる施設の耐震化促進」が32.1%とこれに続きます。
- 東日本大震災により、電気や水など、生活に直結するものが重要視されています。

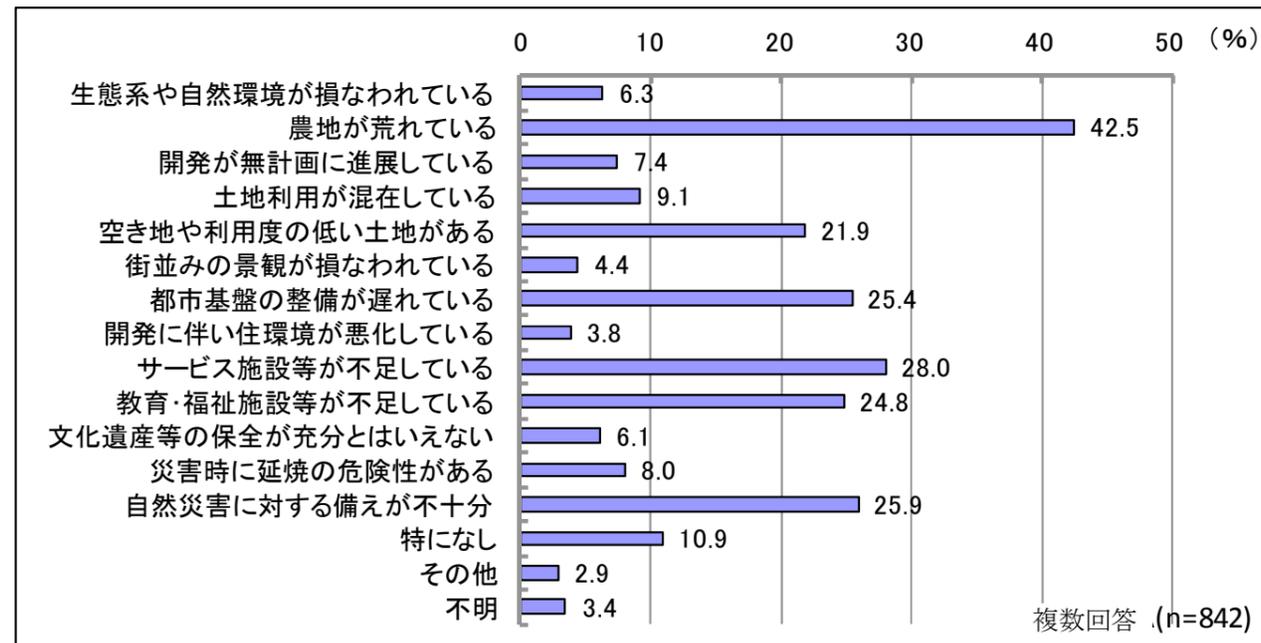
■ 大規模災害への必要な備え（複数回答）



(6) お住まいの地区の土地利用の問題点・課題(問 13)

- 「農地が荒れている」が42.5%と最も多く、「サービス施設等が不足している」(28.0%)、「自然災害に対する備えが不十分」(25.9%)、「都市基盤の整備が遅れている」(25.4%)、「教育・福祉施設等が不足している」(24.8%)、「空き地や利用度の低い土地がある」(21.9%)が続きます。
- 安全性や福祉施設など都市施設の不足を課題とする一方で、農地の粗放化・低未利用地の問題に対応する必要性が重要視されています。

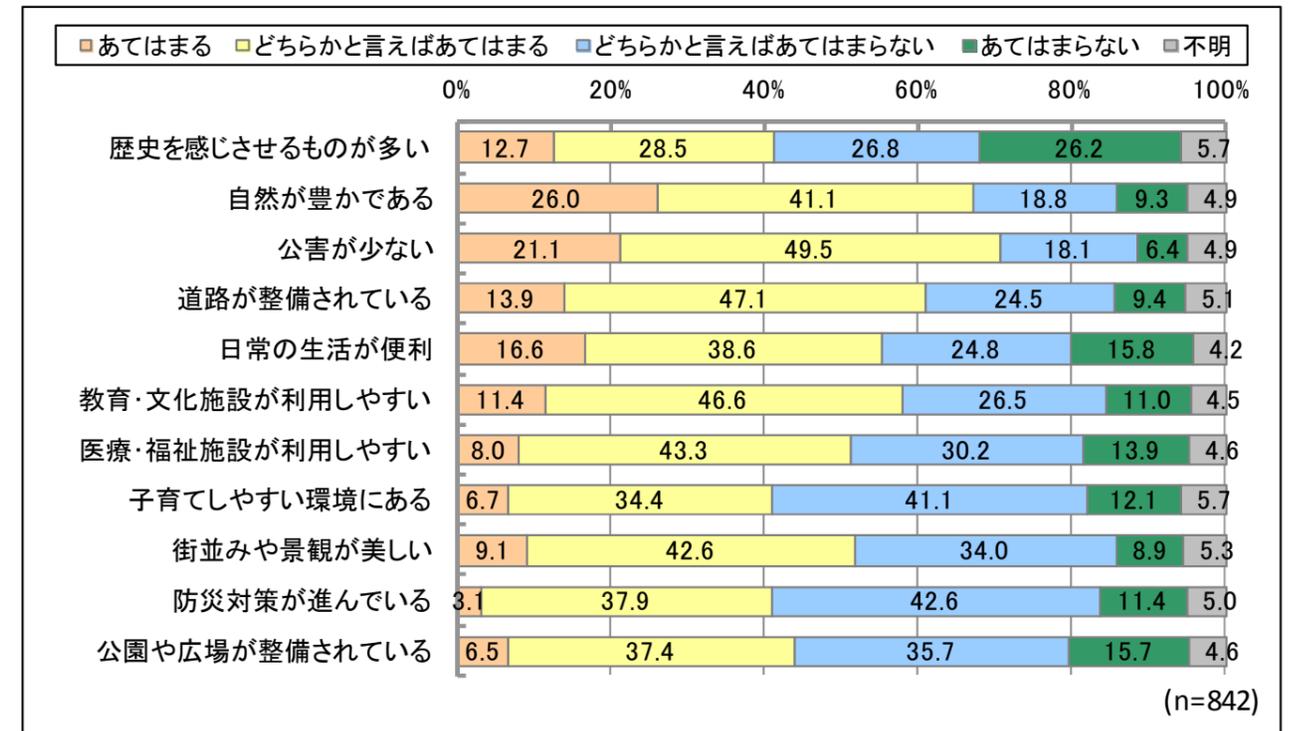
■ 土地利用の問題点・課題（複数回答）



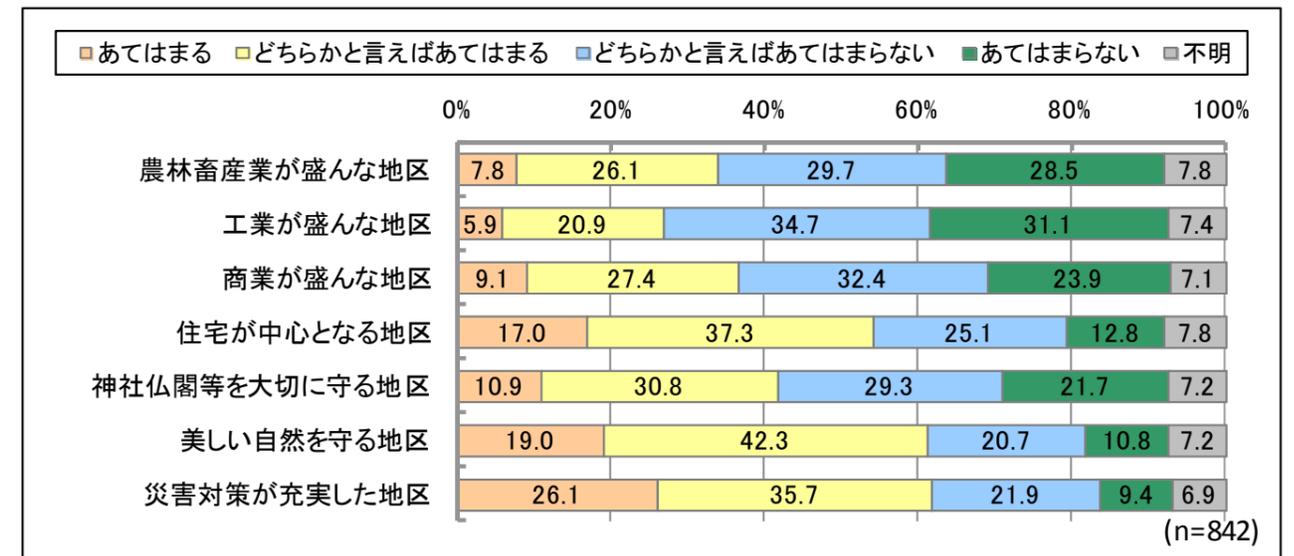
(7) お住まいの地区の現状評価と今後のあるべき姿(問 14、問 15)

- 自分の住んでいる地区が「公害が少ない」「自然が豊かである」という回答が多い一方、「歴史を感じさせるものが多い」「防災対策が進んでいる」「公園や広場が整備されている」「子育てしやすい環境にある」といった項目にはあてはまらないという意見が多くなっています。
- 今後のあるべき姿としては、「災害対策が充実した地区」「美しい自然を守る地区」「住宅が中心となる地区」を望む声が強いです。

■ 地区の現状



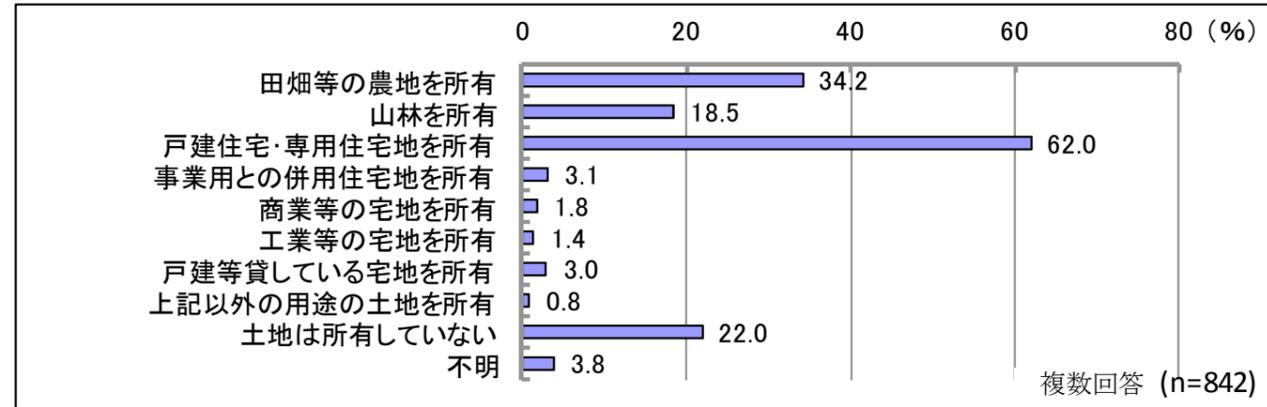
■ 今後のあるべき姿



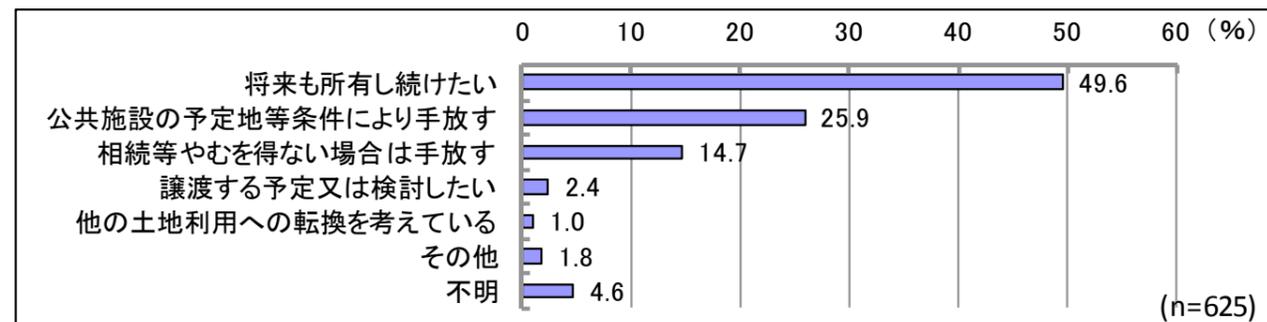
**(8) 土地の所有(問 16、問 17)**

- 62.0%の方が住宅地を所有し、34.2%の方が農地を、18.5%の方が山林を所有しています。また、土地を所有していない人は22.0%です。
- 土地を将来も所有したい人が半数を占める一方、公共事業や相続など、やむを得ない場合は土地を手放すという人も約4割に達します。ただし、具体的に土地の譲渡や転換を考えている人は3.4%と少ない状況です。

■ 土地の所有（複数回答）



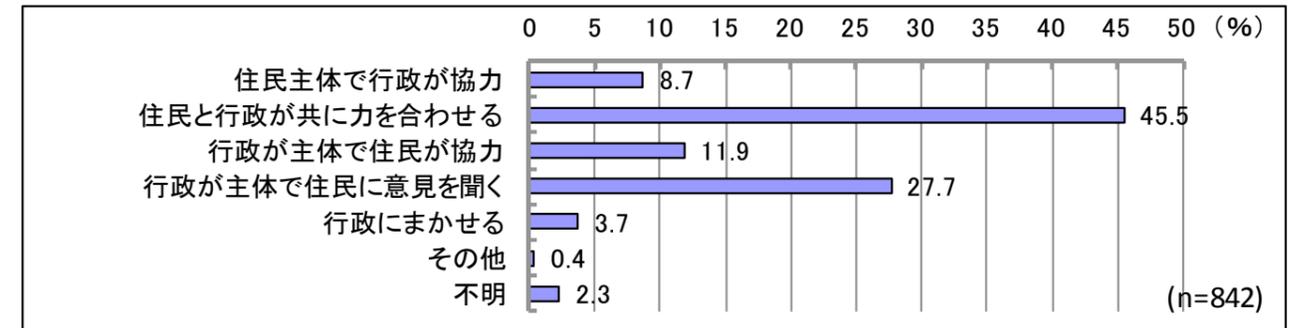
■ 将来の土地所有



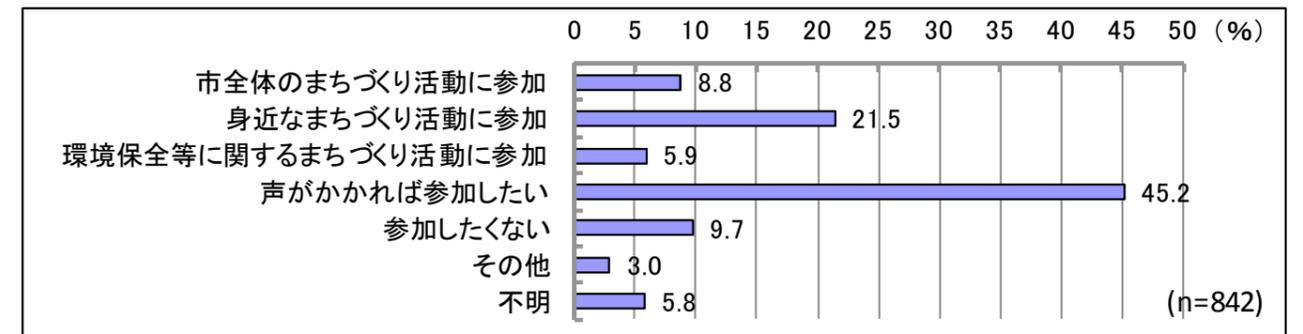
**(9) まちづくりへの参加(問 18、問 19)**

- まちづくりの進め方については、「住民と行政が共に力を合わせる」が45.5%と半数近くを占め、次いで、「行政が主体で住民に意見を聞く」(27.7%)となっており、「行政にまかせる」は3.7%にとどまります。
- まちづくり活動への参加についても「声がかかれば参加したい」が45.2%と突出し、次いで、「身近なまちづくり活動に参加」(21.5%)となっており、「参加したくない」という消極的な意向は9.7%でした。
- 住民と行政との協力が重要視され、きっかけがあれば身近なまちづくりに参加したいという、まちづくりへの関心があることがうかがえます。

■ まちづくりの進め方



■ まちづくり活動への参加



## 【10】 地区別特性

アンケート結果の地区別特徴について以下のとおり整理します。  
(各地区の回答内容をそのまま整理しております。)

### 【本宮地区】

- 歴史を感じさせるものや自然は多くないが、日常の生活が便利で、教育・文化施設、医療・福祉施設が利用しやすく、子育てしやすい環境にあることが評価され、住みやすいという意見や定住意向が高いことがうかがえます。
- 道路整備では踏切の改修を、景観整備では市の顔となる本宮駅周辺の整備を望む意向が高くなっています。
- 福祉施設や防災対策の充実、文化施設の整備・充実を望む意向が高く、住宅が中心となる地区、並びに商業が盛んな地区を地区のあるべき姿と捉えている傾向にあることがうかがえます。

### 【高木地区】

- 日常の生活が便利で、子育てしやすい環境や美しい街並み・景観があることが評価されています。
- 福祉施設や防災対策の充実、魅力ある道路の整備を望む意向が高く、住宅が中心となる地区、並びに商業が盛んな地区を地区のあるべき姿と捉えている傾向にあることがうかがえます。

### 【青田地区】

- 歩行者等ネットワークを含めた道路整備、遊び場や医療・福祉施設などの子育て環境の整備に対する評価は低くなっておりませんが、自然の豊かさは評価され、定住意向も非常に高いことがうかがえます。
- 福祉施設や遊び場の整備、公共交通の充実を望む意向が高く、農林畜産業が盛んな地区を地区のあるべき姿と捉えている傾向にあります。工場や企業の誘致、観光施設の整備を求める意見も多くなっています。

### 【荒井地区】

- 歴史を感じさせるものや自然は多くないが、日常の生活が便利と評価され、住みやすいという意見が非常に多いことがうかがえます。
- 福祉施設や遊び場の整備、公共交通の充実や魅力ある道路の整備を望む意向が強く、住宅・工業・商業の開発意向も高い地区であり、工業や商業が盛んな地区を地区のあるべき姿と捉えている傾向にあります。

### 【仁井田地区】

- 道路や下水道の整備が評価される一方、教育・文化施設や医療・福祉施設、公園や広場などの環境整備、さらには、防災対策に関する評価は低くなっています。
- 遊び場の整備や防災対策の充実を望む意向が強く、災害対策が充実した地区を地区のあるべき姿と捉えている傾向にあります。また、文化施設の整備や産業の活力向上などを望む意向も高いことがうかがえます。

### 【岩根地区】

- 自然の豊かさや公害の少なさ、美しい街並み・景観を大きく評価される一方、歴史を感じさせるものや医療・福祉施設、公園や広場など、子育てしやすい環境への評価は低くなっています。
- 福祉施設の充実や遊び場の整備、公共交通の充実を望む声が強く、農林畜産業が盛んな地区を地区のあるべき姿と捉えている傾向にあることがうかがえます。

### 【関下地区】

- 自然の豊かさをはじめ、産業活力、道路・公共交通・歩行者ネットワーク、災害防止対策や自然環境などの面が評価され、定住意向もうかがえます。
- 福祉施設やさらなる防災対策の充実、美しい街並み景観の創造を望む意向があり、住宅・商業・観光の開発を望む意向もうかがえます。

### 【和田地区】

- 歴史資源や自然の豊かさ、道路整備に対する評価が高く、文化施設の整備・充実に関する満足度も高くなっています。一方で、日常の利便性に対する評価が低くなっています。
- 福祉施設の充実や誰もが生活しやすい空間づくりを望む意向が高く、美しい自然や神社仏閣等を大切に守る地区、農林畜産業が盛んな地区を地区のあるべき姿と捉えている傾向にあります。同時に、住宅・工業の開発意向も高いことがうかがえます。

### 【糠沢地区】

- 歴史資源や自然の豊かさ、教育・文化施設の利用のしやすさ、文化施設の整備・充実が評価されていますが、日常の利便性、医療・福祉施設の利用のしやすさに対する評価が低くなっています。
- 福祉施設の充実や誰もが生活しやすい空間づくり、公共交通の充実を望む意向が高く、神社仏閣等を大切に守る地区、農林畜産業が盛んな地区を地区のあるべき姿と捉えている傾向にあります。同時に、住宅の開発意向も高いことがうかがえます。

### 【白岩地区】

- 歴史資源や自然の豊かさ、教育・文化施設の利用のしやすさが評価されていますが、日常の利便性、医療・福祉施設の利用のしやすさ、子育て環境、公共交通に対する評価が低く、とても住みやすいという評価も低くなっています。
- 産業活力の向上、公共交通の充実や誰もが生活しやすい空間づくりが求められ、美しい自然を守る地区、農林畜産業が盛んな地区を地区のあるべき姿と捉えている傾向にあります。同時に、住宅の開発意向も高いことがうかがえます。

### 【長屋地区】

- 日常の利便性、医療・福祉施設の利用のしやすさ、子育て環境に対する評価は低いですが、歴史資源や自然の豊かさ、道路や公園・広場の整備、教育・文化施設の利用のしやすさが評価され、住みやすいという意見や定住意向もうかがえます。
- 美しい自然を守る地区、農林畜産業が盛んな地区を地区のあるべき姿と捉えている傾向にあることがうかがえます。福祉施設の充実、遊び場の整備、防災対策の充実ほか、様々な取組みを望む意向があり、工業・商業の開発を望む意向もうかがえます。

### 【稲沢地区】

- 歴史資源や自然の豊かさ、文化施設の整備・充実が評価されていますが、幹線道路や公共交通の充実、防災対策、特に日常の利便性に対する評価が低く、住みやすいという評価や定住意向は低いことがうかがえます。
- 農林畜産業が盛んな地区を地区のあるべき姿と捉えている傾向にあることがうかがえます。福祉施設の充実、遊び場の整備、防災対策の充実ほか、様々な取組みを望む意向があり、工業・商業の開発を望む意向もうかがえます。

### 【松沢地区】

- 日常の利便性、子育て環境に対する評価や、防災対策、自然環境との共生や丘陵地の保全・活用に関する満足度が低いですが、歴史資源や自然の豊かさ、公園・広場の整備、美しい街並み・景観、文化施設の整備・充実が評価され、定住意向もうかがえます。
- 美しい自然を守る地区、災害対策が充実した地区を地区のあるべき姿と捉えている傾向にあることがうかがえます。福祉施設の充実、防災対策の充実、誰もが生活しやすい空間づくりを望む意向があり、観光の開発を望む意向が高い傾向にはありますが、住宅・工業・商業の開発を望む意向は低いことがうかがえます。

## (11) 年齢別特性

アンケート結果の年齢別特徴について以下のとおり整理します。

### 【20代・30代】

- 20代では「どちらかといえば住みにくい」という回答が他の年齢像に比較して多く、定住意向も20代、30代では約5割に低下します。また、土地を将来も所有し続けたいという意向も若い世代、特に20代で低いです。
- 子育てしやすい環境や生活の利便性の向上を願っており、20代は（中心）市街地の整備、道路網や公共交通の充実、遊び場・公園や広場等の整備、誰もが生活しやすい空間づくり（ユニバーサルデザイン等）、30代はレクリエーション拠点の整備、遊び場の整備、住宅地や公営住宅の整備、商店街の整備、誰もが生活しやすい空間づくり（ユニバーサルデザイン等）を望む意向が高くなっています。
- また、「教育等の環境が整備された市」「自然豊かな市」を望む意向も高いです。
- 今後の開発については、20代で工場や企業誘致意向が低く、20代、30代で大型商業施設の誘致や観光施設の整備意向が高くなっています。

### 【40代以上】

- 40代以上では、全ての年代で住みやすいと回答している方が8割を超えており、定住意向も40代では、7割を切っていますが、50代以上は全ての年代で8割を超えています。
- 40代以上は「障害者や高齢者が住みやすい市」を求める意識が強く、特に70歳以上で顕著であり、「福祉施設の充実」など、安心して生活できる環境を望む意向が高くなっています。
- 今後の開発については、工場や企業誘致意向は半数の方が求めています。大型商業施設の誘致や観光施設の整備意向が低くなっています。

## (12) 土地所有別特性

アンケート結果の土地所有別特徴について以下のとおり整理します。

### 【農地・山林所有者】

- 農地が荒れていることを問題として強く意識しており、農林畜産業の振興を望む一方で、土地を将来も所有し続けたいという意向は低く、住宅地、工場や企業誘致、大型商業施設の誘致等の開発意向が高いです。

### 【住宅地所有者】

- 土地を将来も所有し続けたいという意向が高いです。

### 【非土地所有者】

- 工場や企業誘致意向が低く、大型商業施設の誘致や観光施設の整備意向が高いのが特徴的です。
- 土地所有者に比較して、非土地所有者の定住意向は低くなっています。